



バラの会
松坂 昌應 議員

問「交通まちづくり」と島鉄

Q 鉄道北線存続のためには上下分離方式が有効だと思うが、協議検討は進んでいるのか。

A 上下分離のメリットは承知している。新たな経営体制となつて、いったん保留になつてはいるが、島鉄は、今まで以上に北線存続への強い意志を持って頑張つておられる。注視しながら検討を進めたい。

問イオンとバスターミナル

Q 現在イオンと島鉄バスターミナルを分断している市道を島鉄敷地内で迂回させて一体化できないか。交通事業は一企業の問題ではなく公共のものという考え方で。

A 今回島鉄社長と九州イオンの責

任者から、あの地域の再開発の意思を確認した。地元からの要望にも沿うものなので、ほつとしている。道路付け替えは可能、協力したいと答えた。

Q バスターミナル整備に合併特例債は使えないか。

A 庁舎建設で、特例債より有利な起債が出来たので、市実質負担を10億円ほど削減できた。特例債枠はまだあるが、合併時の計画に無かつたので、現計画のままでは特例債の活用は難しい。

Q 商業施設に投票所など公共機能を持たせる事例もあるが、懸案の文化会館を新イオンの三階に載せることは可能か。特例債も使えると思うが。

A 個別にはこれからだが、公共性があつた方が行政としては、例えば道路の付け替えなど、応援しやすい。

【その他の質問項目】

◇みんなで『まちづくり』を考えよう。(リノベーションまちづくり)



新風会
上田 義定 議員

問一 汚泥処理

Q 前浜クリーン館の当初計画処理数量と処理量の実績は。

A 処理数量は整備規模が1ヶ月換算4320キロリットルに対し、平成29年度の月平均処理数量の実績は4398キロリットルである。

Q 実績が計画を上回っているが、施設は大丈夫か。

A 実際の処理能力は1.3倍あるのが大丈夫である。

Q 実績が計画より多い原因は。

A し尿汲み取りから水洗に変わったので搬入量が増加したこと。また、人口減少が推計値より緩やかなためである。

Q 投入管理に問題はないか。

A 他市の分は入ってきていない。問題ない。

問一 出生数と小・中学校の再編について

Q 合計特殊出生率は上昇したが、実際の出生数は下がっている年もある。とことん子育て政策として、400人を維持するという目標はどうか。

A 出生数が重要なので、400人に達したいという思いは強い。

Q 小・中学校の再編についてどのような方針を立てているか。

A 今後の人口減による税收減から学校施設の維持管理が難しくなること、児童・生徒数の減少に伴い校舎が過剰になることから、小学校の統合や小中一貫校による再編を考えている。

Q 再編時期は何年度という基準か、児童・生徒数の推移が基準か。

A 四小、一小及び三小以外の校舎は10年、20年の範囲で耐用年数を迎える。それと合わせて出生数に伴う児童・生徒数の変化の両方を勘案して再編時期を考えていく必要がある。

Q 校区割りにしても検討はした方がよいと考えるがどうか。

A 校区割りは検討するが、旧町村のコミュニティは大事にしたい。